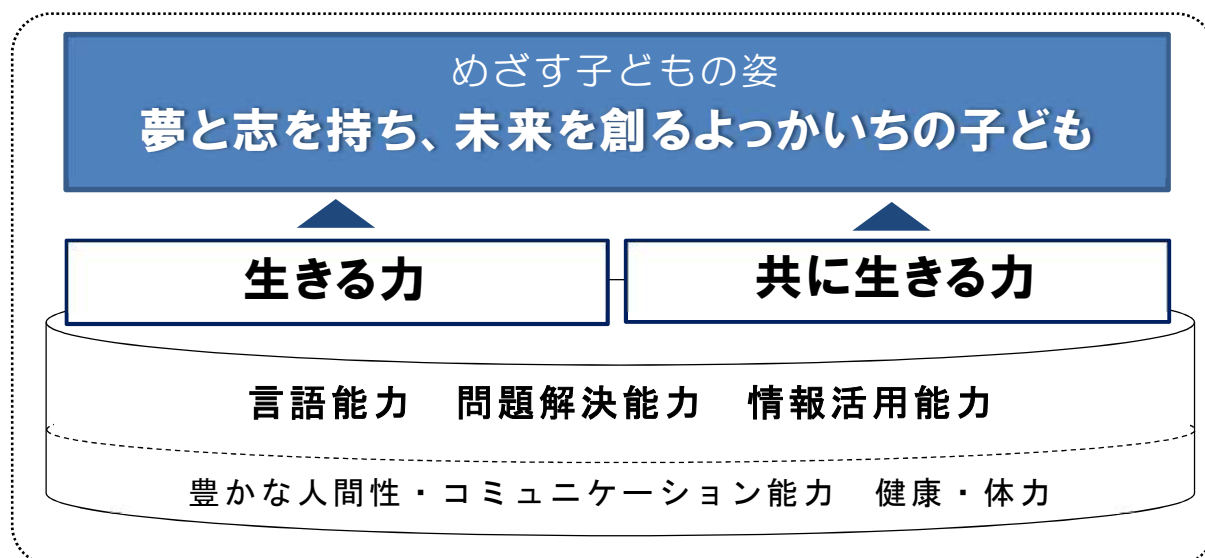


第 1 章 四日市市が進める教育の基本的な考え方

- 1 四日市市が目指す子どもの姿
- 2 施策の体系
- 3 施策の重点

1 四日市市が進める教育の基本的な考え方

「夢と志を持ち、未来を創るよっかいちの子ども」実現に向けて



本市では、「四日市市教育大綱」を定めるとともに、本市の教育振興のための施策に関する基本的な計画として「第4次四日市市学校教育ビジョン」を策定し、多様で変化が激しく一層複雑化し、解決の道筋が明らかでない問題が多く存在するこれからの社会において、子どもが自らの人生を拓き、生き抜く力を身に付け、さらに他者とも協働している姿の実現のため、「夢と志を持ち、未来を創るよっかいちの子ども」の育成を目指しています。

学校教育は、子どもたちが自分の良さや可能性を伸ばしながら、多様な人々と共に変化を乗り越え、社会の一員として、豊かで充実した人生を送ることができるよう基盤を築くための「ひとづくり」そのものです。

本市は、平成17年1月に策定した第1次四日市市学校教育ビジョンから、一貫して、子どもたちに「生きる力」「共に生きる力」を育むことを大切にしてきました。

本ビジョンにおいては、子どもたちが夢と志を持ち、未来を創っていくことができるよう、時代の変化に合わせてながら「生きる力」「共に生きる力」の育成を継承していきます。

生きる力 調和のとれた「知・徳・体」

学力や本市がこれまで大切にしてきた問題解決能力、豊かな人間性やコミュニケーション能力、健康・体力に加え、これからの社会を切り拓いていくために必要な言語能力や情報活用能力を「生きる力」とし、調和のとれた「知・徳・体」の育成を図ります。

共に生きる力 多様な人々と共に変化を乗り越える力

社会の一員として、豊かで充実した人生を送ることができるよう、他者と協調しながら相手を思いやる心や多様性を尊重し、多様な人々と共に変化を乗り越える力を「共に生きる力」とし、その育成を図ります。

2 施策の体系

基本理念

めざす子どもの姿

夢と志を持ち、未来を創るよっかいちの子ども

生きる力

調和のとれた「知・徳・体」

共に生きる力

多様な人々と共に変化を乗り越える力

学習や生活の基盤となる
言語能力

社会人になっても通用する
問題解決能力

情報社会に主体的に参画する
情報活用能力

社会でよりよく生きていくための基盤となる
豊かな人間性・コミュニケーション能力

生涯を通じて心身ともに健康な生活を送るための基盤となる
健康・体力

基本目標

子どもにつけたい力

基本目標1
確かな学力の定着

基本目標2
こころとからだの
健全な育成

基本目標3
よりよい未来社会を
創造する力の育成

子どもの学びを支える学校づくり

基本目標4
全ての子ども能力を
伸ばす教育の実現

基本目標5
学校教育力の向上

施策

施策の重点（四日市スタイル～質の高い公教育～）

- (1) 四日市市新教育プログラムの着実な実践
- (2) ICTの効果的な活用（四日市市GIGAスクール構想）
- (3) 学校の組織力向上（四日市市の公立学校における働き方改革 ver.2）

具体的施策 28項目

3 施策の重点

グローバル化の進展とともに、技術革新が急速に進み、社会が加速度的に変化していく超スマート社会（Society5.0）と称される時代を生きる子どもたちに必要な力を育めるよう、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちを見守り、大切に育てていくことが重要です。



そのため、本ビジョンでは、次の3点を「四日市スタイル～質の高い公教育～」確保の礎として、様々な施策を横断的に結びつけ中心的な役割を果たす「施策の重点」に位置付け、施策を推進していきます。

（1）四日市市新教育プログラムの着実な実践

新学習指導要領の着実な実施や Society5.0 の到来などの新たな課題に対して、問題解決能力、言語能力、情報活用能力などの就学前から中学校卒業時まで育成すべき資質・能力を掲げ、根幹となる具体的な取組を系統的に組み立てた本市独自の教育施策「新教育プログラム」の着実な実践を図り、より一層教育効果を高めます。

「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の育成
言語能力・問題解決能力・情報活用能力といった必要な資質・能力の育成

柱
1

読む・話す・伝える
プログラム

読解力向上について重点的に指導するとともに、読む・話す・書くといった活動を通して、学校教育活動全体で言語活動の充実を図る。それにより、「文章を正確に理解し、適切に表現する資質・能力」を育成します。

取組
実績・
状況
成果

- (1) 「読解力を育む20の観点」のワークシートの作成・配付
 - ・R2：小学校高学年対象に配付
 - ・R4：中学校対象に配付（全教科対応）推進校で問題を作成協力
 - ・R4：小学校中学年対象に作成
- (2) 読解力向上推進校（小学校1校、中学校1校）
 - 文章を正確に理解し、適切に表現する資質・能力の育成の研究
- (3) 「スピーチコンテスト THE BENRON」を3年ぶりに対面で実施（R4）
 - 市内全体に還流させるため四日市学習ポータルサイト「こにゅうどうくん学びの部屋」で動画公開

評価

- 全国学力・学習状況調査：国語（全国100として）
 - 【小】R1：98.9→R4：100.0 【中】R1：100.0→R4：99.9
- 小学校では、朝の学習、授業中、家庭学習等でワークシートを活用し、読解力の向上につながった。
- 推進校の実践から、国語科に限らず他教科でも「読解力を育む20の観点」を意識した授業改善につながるといった成果が得られた。
- 「スピーチコンテスト THE BENRON」は、中学生が表現する場として、非常に有効な場となった。

第1章 四日市市が進める教育の基本的な考え方

柱
2

論理的思考で
道筋くっきり
プログラム

本市の強みである算数・数学の力をさらに伸ばすとともに、情報活用能力の育成を図る。加えて、プログラミング体験等を通してプログラミング的思考を育むなど、これからの時代に求められる論理的思考力を育成します。

取組
状況
実績・
成果

- (1)教科横断的な思考スキル等の活用
 - ・思考スキル、思考ツール、表現モデルを活用した授業づくり
 - ・「論理的思考力向上のための手引き」の作成、配付
- (2)論理的思考力向上推進校（小学校1校、中学校1校）
論理的思考力向上を目指した実践的・効果的な授業づくり等の研究
- (3)オンライン学習支援教材「学んでE-net!」に、本市独自で記述問題ワークシートを掲載
- (4)プログラミング教育
 - ・小学校で発達段階に応じたプログラミング教育を実施
 - ・プログラミング教育を実施するための研修会を実施

評価

- 全国学力・学習状況調査：算数・数学（全国100として）
【小】R1：100.0→R4：100.5 【中】R1：101.0→R4：102.1
- 推進校の実践から、「問題を解くときに、絵や図表式などを活用している」と肯定的回答している割合が全学年で上昇した。
- 「学んでE-net!」を補充学習や家庭学習等において活用したり、生徒が自主的に学習したりすることができた。
- 児童生徒一人一台タブレットの配備により、様々な教科と関連させながらプログラミング学習が行えるようになった。

柱
3

英語でコミュニケー
ションIN四日市!
プログラム

就学前から英語に出会い、聞く・読む・話す・書くの4技能を統合した言語活動により、発達段階に応じた英語コミュニケーション能力を育成し、英語で四日市を語ることで育つ子どもたちを育てます。

取組
状況
実績・
成果

- (1)小学校英語専科教員の配置
- (2)全小中学校へネイティブの英語指導員の配置
英語キャンプ、パフォーマンステスト、イングリッシュLAB等を実施
- (3)英検IBAを中学校全学年で実施
- (4)小中学校連携した英語学習をとおして「故郷よっかいち」を英語で紹介できる力の育成
 - ・あすなろう鉄道・三岐鉄道英語アナウンス
 - ・四日市・ロングビーチ交流プログラム

評価

- 「英語を使って友達と会話することは楽しい」と肯定的な回答をした児童の割合
小学5・6年生 R1 82.0%→R3 83.7%
- 第3期教育振興計画では「中学校卒業段階で英検3級等以上 50%以上」を目指している。令和4年度の英検IBA（3級以上レベル）の本市生徒の割合（中学3年生）は、50.7%となっている。
- 英検IBAの中学1年生のリスニングの正答率が他分野と比べて高い。英語専科教員配置等により小学校で聞く・話す活動を多く経験していることが成果の要因と考えられる。

柱
4

運動大好き！
走・跳・投 UP
プログラム

体育授業・運動遊び等で十分な運動量を確保し、体力・運動能力を向上させる。生涯にわたって健康を保持し、豊かなスポーツライフの実現を目的とした運動に親しむ資質・能力を育成します。

実績・成果 取組状況	<p>(1)四日市市運動能力・体力向上推進委員会で検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力・運動能力の現状、課題把握 ※全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果分析冊子発行 ※保護者向けリーフレット発行 ・体力向上、授業改善に係る取組の検討・発信 等 R2:【小】「新5分間運動スタートブック」等作成 R3:【中】「Warmup+新5分間運動スタートブック」等作成 R4:【小】「新5分間運動からはじめる授業づくりガイドブック」作成 <p>(2)小学校体育担当者研修会を年3回実施</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校ともに新5分間運動が定着してきた。 ○全国と同様、小中学校男女ともに、体力は低下傾向にあるが、小学校は全国との差が縮まってきた。 ○「運動やスポーツをすることが好き」と肯定的回答をした児童生徒の割合は、令和3年度より改善傾向がみられた。 【小】男子 R1 92.8→R3 89.6→R4 91.0% 女子 R1 89.6→R3 83.4→R4 83.8% 【中】男子 R1 89.9→R3 88.6→R4 89.9% 女子 R1 80.1→R3 74.8→R4 78.4% ○運動特性に触れ、達成感や成就感が感じられる授業づくり、日常的に運動したくなる環境づくりが進んだ。

柱
5

夢と志！
よっかいち
輝く自分づくり
プログラム

体系的なキャリア教育の取組を通して、子どもたちが自身の夢や志の実現に向けて「学び続ける」ために、「何のために学ぶのか」という目的意識や、「学ぶこと」と社会とのつながりを意識した主体的な学習意欲を持つとともに、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成します。

実績・成果 取組状況	<p>(1)四日市版キャリア・パスポートの作成・配付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R2:小6・中学生に配付 ・R3:全小中学生に配付 (R4以降、毎年小1・中1に配付) <p>(2)キャリア・パスポート推進校(小学校1校、中学校1校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・パスポートの効果的な活用に係る実践研究・検証 ・推進校の取組リーフレットを作成・配付 <p>(3)プレ社会人セミナー・職場体験の実施(中学校)</p> <p>ゲストティーチャーによる出前授業及び職業に関わる様々な事業所等での職場体験活動(原則3日間実施)</p> <p>(4)各中学校区において子ども人権フォーラムを実施</p> <p>(5)全小中学校において、メディア・リテラシーと人権についての出前授業を実施</p>
---------------	---

第1章 四日市市が進める教育の基本的な考え方

評価	<ul style="list-style-type: none"> ○「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童生徒の割合 【小】R1 82.0%→R4 77.3% 【中】R1 70.0%→R4 70.5% ○キャリア・パスポートを学年・学校間で引き継ぐことにより、子どもの育ちを把握して指導できるようになった。 ○同じ中学校区内で推進校を指定し、小中学校でめざす子どもの姿を共有し、発達段階に応じたキャリア教育に取り組んだ。 ○子ども人権フォーラムや出前授業を通して、児童生徒が身近な人権問題を話し合い、その解決に向けた実践行動力の育成につなげることができた。 ○令和4年度キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学表彰受賞6校目
----	---

柱6

四日市ならではの地域資源活用プログラム

四日市の歴史・文化・自然を活用した教育や、高度なものづくり産業と連携した教育、持続可能な社会づくりに主体的に取り組む環境教育を通して、ふるさとに対する誇りと愛着を育むとともに、四日市を語る事ができる「心豊かな“よっかいち人”」を育成します。

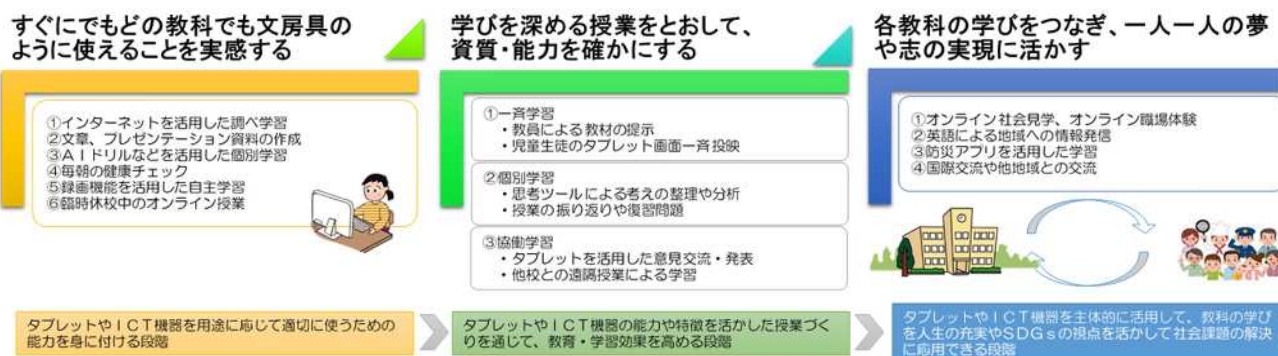
実績・成果 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> (1)四日市公害と環境未来館の見学 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校5年生、中学校3年生で実施 ・R4：中学校では、四日市公害と環境未来館が作成したオリジナル動画や学習資料を活用し、代替学習を実施 (2)市内教職員対象にESD・SDGsの研修会を実施 (3)小学校社会科副読本「のびゆく四日市」のデジタル教材を作成 四日市学習ポータルサイト「こにゅうどうくん学びの部屋」にデジタル教材を掲載 (4)企業連携授業やJAXAと宇宙に関する教育活動を実施
評価	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と肯定的な回答をした児童生徒の割合 【小】R1 55.7%→R4 50.7% 【中】R1 42.0%→R4 43.4% ○公害の事実、市民や企業、行政の取組や当時の人々の思いを知り、ふるさと四日市を大切に思い、自分たちにできることを考えることができた。 ○ESD・SDGsの研修会に参加した教員は、SDGsを学ぶ意義や目的を体感することができた。 ○ふるさと四日市を知り、誇りと愛着を持ち、社会とつながる協働的な学びを実現することができた。 ○令和4年度コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進に係る文部科学表彰受賞 6校目

(2) ICTの効果的な活用(四日市市GIGAスクール構想)

国のGIGAスクール構想の推進に合わせて、本市は1人1台学習者用タブレット端末、校内無線LAN、各教室へのプロジェクタセットの配備を進め、令和2年度末に、全小中学校への配備を完了しました。

今後は、これまでの実践とICTを最適に組み合わせることで個別最適な学びと協働的な学びを実現し、子どもたちの学習の充実を図ります。

ICT活用による授業改善を通じた学力向上
オンラインを活用した学校や家庭・地域とのデジタル連携



【環境整備】

実績・成果 取組状況	<p>(1)学習用アプリの導入 学習用タブレット端末で個別学習アプリ(ベネッセ社ドリルパーク)を導入し、朝の学習や家庭学習等で活用</p> <p>(2)学校保護者連絡システム導入 校務支援システム(EDUCOM社C4th)と連携した学校保護者連絡システム(EDUCOM社Home&School)を使用した学校と保護者の双方向連絡システムの導入による連絡手段のデジタル化</p> <p>(3)ネットワークの増強 各学校からインターネットへの接続回線を10Gbpsに増強し、クラウドの利用やオンライン教材へのアクセス、家庭との接続を高速化</p> <p>(4)教員用タブレット端末の配備 小中学校の授業等における事前準備や教材研究</p>
評価	<p>○個別学習アプリの導入により、朝・帰りの帯時間や授業の振り返り等を利用して基礎学力の定着や、急な出席停止や学級閉鎖時の学びの保障が充実した。</p> <p>○学校保護者連絡システムの導入により、欠席連絡がオンライン化され、保護者・教員の双方の負担軽減につながった。また、学校からの情報伝達や発信のデジタル化により印刷物が減少した。</p> <p>○インターネット接続回線の高速化により、複数学級が同時にクラウドやインターネット上の教材等にアクセスしても、フリーズしたり画面表示が極端に遅くなったりすることがなくなった。</p> <p>○教員用タブレットが1人1台となることにより、指導用タブレットが教員に固定化され、職員室に持ち帰っての教材研究や準備が可能となった。これにより、授業準備に時間をかけることができるようになり、より効果的な活用が可能となった。</p>

第1章 四日市市が進める教育の基本的な考え方

【教職員研修】

実績・成果 取組状況	<p>(1)指導主事等による指導・助言 ICT機器の活用や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりに関する指導・助言（全小学校各2回訪問）</p> <p>(2)出前研修等 ICT機器を活用した授業づくりに係る各校での研修講座（年11回実施）</p> <p>(3)ICT活用実践推進校公開授業の実施 （令和4年度推進校：橋北中学校、西朝明中学校、大矢知興譲小学校、水沢小学校、河原田小学校） 各小中学校から推進校いずれかの公開授業に最低1名参加</p>
評価	<p>○教育支援課が年度末に全教員対象に調査している「ICT活用実態調査」によると「ICTをよく活用している」「日常的に活用している」と回答した教員の割合が向上した。 R3 77% → R4 82%</p> <p>○市立小中学校の全てのICT推進担当教員等が、ICT活用実践推進校公開授業に参加し、学習者用タブレット端末を活用した児童生徒の意見や考えの交流・発表用資料の作成方法など、効果的な授業づくりについて、先進的な実践から学ぶ機会となった。</p>

（3）学校の組織力向上（四日市市の公立学校における働き方改革 ver.2）

子ども一人一人の学びを最大限に引き出すためには、教員が子どもと向き合う時間を十分確保する必要があります。

教員が本来の業務に集中して取り組めるよう学校が担うべき業務を明確化するとともに、ICTを積極的に活用した業務の効率化、学校・家庭・地域や専門家との連携など、学校における働き方改革の推進により組織力の向上を図ります。

学校業務の効率化や学校情報のデジタル化
学校と家庭・地域・専門家などとの連携を踏まえたカリキュラム・マネジメント

取組1 仕事の積極的な効率化を図ります

教職員の長時間勤務の実態改善は、単に教職員の帰宅時間を早めれば実現するものではありません。学校及び教職員の業務の総量を減らさずに在校時間の短縮を図ろうとしても、家に持ち帰る仕事が増えることにつながり、根本的な解決にはなりません。

学校を運営していくうえで、事務的な業務は不可欠ですが、教職員の負担感の大きな要因であると同時に、効率化による改善の余地も大きい分野です。このため、業務量の削減や教育活動の見直し等により、積極的な効率化と事務の削減を進めていきます。

取組2 学校業務のデジタル化を推進します(新規)

本市では、令和2年度末までに児童生徒1人1台タブレット端末の整備が完了し、令和3年度から教育活動での活用が始まりました。1人1台タブレット端末の導入の目的は、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に加え、教職員の働き方にも効果があります。教員の業務は、授業や授業の準備のほか、成績処理や調査回答等の事務など、多岐にわたります。校務支援システムをはじめ、ICTを活用することで、業務にかかる時間や負担感を軽減できるようデジタル化を推進します。

取組3 外部人材や専門スタッフなどを活用して学校を支援します

授業や生徒指導など、子どもと向き合う業務は、教職員にとって最も重要であると同時に、単純に時間を削減し効率化を行うことはできません。専門スタッフを配置するとともに保護者や地域の方々の協力を得ながら、より教育効果を高めつつ、効率化も進めていきます。

取組4 時間を意識した働き方を徹底します

各学校の教育目標に照らしても、限られた時間で最大の教育効果を発揮していくためには、教職員が心身ともに健康な状態で子どもと向き合うことが必要です。校長のリーダーシップのもと、学校が一体となって、業務の優先順位を共有し、教職員一人一人が組織の一員としての自覚を持ち、時間を意識した働き方になるよう取組を進めます。

第1章 四日市市が進める教育の基本的な考え方

【環境整備（制度設計など）】

実績・成果 取組状況	<p>(1)学校保護者連絡統合システム（R4～） 学校と家庭の両者の負担軽減のため、学校だよりや欠席連絡など、学校と家庭間の連絡手段をデジタル化</p> <p>(2)教員用1人1台タブレット端末（R4～） 授業で使用するタブレット端末による事前準備や教材研究の効率化</p> <p>(3)給食費公会計化（小学校：R4～ 中学校：R5～） 給食費徴収に係る教職員の業務負担軽減</p> <p>(4)高性能コピー機の導入（R3～全校設置） 印刷業務に係る時間短縮</p> <p>(5)オートメッセージ付き電話（R1.8～） 教職員の勤務時間外における電話対応の負担軽減</p> <p>(6)校務支援システムの導入（H31～） 出席簿、成績処理、指導要録作成等のデジタル化と児童生徒情報の一元管理</p> <p>(7)週2日の部活動休養日の設定（中学校のみ）（H30～） 部活動ガイドラインによる生徒及び教職員の健康面を配慮し、休養日を設定</p> <p>(8)学校閉校日（夏/冬）の設定 長期休業中における学校の対応軽減を目的とした閉校日の設定</p> <p>(9)高学年一部教科担任制（R2～） 新教育プログラムの実現、「学びの一体化」の推進を目的とし、小学校高学年における教科担任制に対応するための実践的研究を実施</p> <p>(10)定時退校日の設定</p> <p>(11)学校外の会議や研修のオンライン化</p> <p>(12)学校行事の見直し</p> <p>▶超過勤務年720時間以上の教職員の割合 【小】R1 10.8%→R4 3.3% 【中】R1 33.3%→R4 15.2%</p>
評価	<p>○教職員間や学校・保護者等間における情報共有や連絡調整に係わる手段のデジタル化や、ICTを活用した校務効率化により、教職員や保護者の負担軽減につながった。運用開始からまだ数年であるため、今後、更に活用が進めば、教師の負担軽減や勤務時間削減への効果が期待される。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策下において、学校行事の教育的観点を踏まえつつ、その実施方法の適切な変更・工夫を行ってきた。これが一つの契機となり、学校行事の精選や内容・準備の見直しが進んでいる。今後も、児童生徒や学校、地域の実態に応じて、学校行事をより効果的・効率的に実施していく。</p>

第1章 四日市市が進める教育の基本的な考え方

【環境整備（人材の活用）】

<p>実績・成果 取組状況</p>	<p>(1)学校業務アシスタント（市）の配置（H31～） (2)スクールサポートスタッフ（県）の配置（R2.9～） データ入力や印刷業務、書類整理、環境整備など、学校や教員が必ずしも担う必要のない業務を行う。 ▶業務負担軽減に効果があった取組のうち回答割合の高いもの（教職員アンケート調査より） 学校教務アシスタント 96% 給食費公会計化 88% 高性能コピー機 85%</p>
<p>評価</p>	<p>○印刷や調査・統計の回答等、学校の業務だが必ずしも教師が担う必要のない業務を任せることができ、教職員の業務負担軽減に大きな効果をもたらしている。また、学校行事等に関しても、準備・運営に際しての家庭・地域との連携・協力、学校業務アシスタント等の活用を推進する。</p>

【部活動地域移行】

<p>実績・成果 取組状況</p>	<p>(1)部活動指導員/協力員の配置 ・休日部活動を持続可能な活動とするための地域人材を中心とした人材確保 ・令和4年度21名を指導員として市立中学校に配置 (2)総合型地域スポーツクラブとの連携 ・休日部活動について、総合型地域スポーツクラブが担えるよう体制を整備 ・令和4年度 1クラブ（楠スポーツクラブ） ・連携した部活動（全ての部活動で連携） 運動部（軟式野球、サッカー、陸上、卓球、バレーボール、ソフトテニス） 文化部活動（美術創作） (3)拠点型活動 各競技団体と連携し、拠点型の活動を行うことができるよう体制整備のための調査・研究を実施</p>
<p>評価</p>	<p>○総合型地域スポーツクラブ「楠スポーツクラブ」と楠中学校の連携については、休日の練習を中心に全ての部活動において、「楠スポーツクラブ」の指導員が行った。指導員単独での指導が可能であるため、教員については、平日は他の業務に従事することができた。また、土日の練習は指導員に任せてきたことで、教員は休養することができた。</p> <p>○部活動指導員については、市内中学校の21部活に指導員を任用し、土日の休日を中心に専門的な技術指導を行いました。総合型地域スポーツクラブの指導員同様、単独での指導が可能のため、教員の働き方改革につながりました。</p> <p>○総合型地域スポーツクラブによる指導も部活動指導員による指導も学校の教員との間で、生徒の情報や練習のメニューなど、綿密なコミュニケーションを図りながら進めることができた。</p> <p>○地域指導者による部活動指導により、教員の部活動指導に関する業務負担の軽減は一定の成果がみられるものの、全ての部活動において、地域指導者が行えるだけの環境は整っていないため、市の関係部局や各種協会、団体と共に、環境整備に取り組む。</p>